

公表

第 55 回技能五輪全国大会「メカトロニクス」職種 競技要領

取り決め事項

1. 注意事項

- (1) 服装および靴は、作業に適したものを着用すること。
- (2) 工具等の整理整頓や作業場所の清掃は、常に実施すること。
- (3) 競技中、安全に十分留意して、怪我のないように作業すること。選手が怪我をした場合、競技時間内に 2 名とも作業停止し手当を行う（時間内対応）。但し、他チームの原因で発生した場合は競技委員会の判断で対応する。
- (4) 競技中、工具および材料の貸し借りは禁止する。
- (5) 他選手の競技を妨害する行為をしないこと。
- (6) 作業場所を離れる場合は、審査員の了解を得ること。
- (7) 大会前日のメモリクリア実施以降、選手・関係者はパソコン、携帯電話、USB メモリ等のメディア、課題、手書き資料等を競技エリア外への持ち出し・持ち込みを禁止する。また無線 LAN の使用も禁止する。
- (8) 許可された者以外は、競技エリア内で写真・ビデオ等の撮影、カメラ等の設置を禁止する。
- (9) 全ての競技が終了するまでの間に競技委員・審査員よりルール違反（危険行為を含む）が報告された場合は、主査がその事実を確認し、違反内容に応じて注意・減点・得点剥奪・失格の処分を行う。
- (10) 競技期間中(2 日間)は、選手と競技運営関係者（競技主査、競技委員、競技補佐員、審査員）以外の競技エリアへの立ち入りを禁止する。
- (11) 審査担当者は、競技中に企業名、学校名の入った衣服を着用してはならない。
- (12) 審査担当者は、第 4 回職種連絡会と競技前日の「審査員研修」に参加しなければならない。
- (13) 審査担当者は、競技当日の課題内容説明会に参加してからその日の競技が終了するまでの間、審査担当チーム以外の選手や外部の者との接触を一切禁止する。

2. 禁止される危険行為（代表例）

	危険行為	理由
1.	電源を投入したまま、配線作業をしている（I/O ケーブルを外しただけでは危険）。	感電やショートにより受傷する恐れがある。
2.	エア源を投入したまま、配管作業をしている。	配管が抜けた際、エアの勢いでチューブが跳ね、目や体に受傷する恐れがある。 圧力がかかからないと想定される箇所も、同様の扱いとする。
3.	（保護）メガネを着用せずに、ハンダ付け作業をしている。	飛びハンダなどが目に入り、受傷する恐れがある。
4.	（保護）メガネを着用せずに、穴あけ作業をしている。	切りくずなどが目に入り、受傷する恐れがある。
5.	工具等を床面に放置したまま、ステーション上の作業をしている（制御盤配線作業時等は良い）。	踏んだりつまずいたりすることにより、捻挫・転倒の危険がある。
6.	プロファイルパネル上のごみを、エアブローにより除去している。	飛散したごみが目に入るなど、受傷の恐れがある。
7.	支給部品の箱の開梱に、刃物（カッターナイフ、はさみ等）を使用している。	誤って手を切るなど、受傷の恐れがある。
8.	部品の包装袋の開封時、カッターナイフで袋を空中切りしている。	誤って手を切るなど、受傷の恐れがある。
9.	ロボットの動作速度が 250mm/s を超えている。	ロボットに挟まれる、ロボットに衝突するなどにより、受傷の恐れがある。

3. プログラム作成について

- (1) 競技で使用する PLC の機種、ロボットの機種、全てのソフトウェアの種類を事前に公開し、競技委員会の確認をとる。
- (2) 全てのプログラム、データファイルは、競技時間中に新規に作成する。ただし、ソフトウェアの初期設定（キーバインドの変更、ネットワークの設定など）、および競技委員会が許可したファンクションブロックに限り、事前準備して良い。
- (3) パソコンには、競技に使用しないデータファイルを入れないこと。また、競技に使用しないソフトウェアで、誤解の恐れのあるものを入れないこと。

認められる例：

- 競技開始前（設備を持ち込む前など）にローダソフトの設定を行う（コンパイルを独自のキー操作に割り当てる、A 接点の入力を独自のキー操作に割り当てる、PLC との接続のための設定を行う、I/O アドレスの定義を行う、など）
- 競技開始前に、ハードウェアの各種システム構成定義、アドレス設定、コメントファイル、変数（ラベル）定義を行う
- 通信モジュールへの初期設定のための定義、または設定のためのプログラムを事前準備する
- 通信モジュールと CPU のメモリへのデータ交換のための設定、またはプログラムを事前準備する
- タッチパネルと PLC 間でのデータ交換のための設定、またはプログラムを事前準備する
- 事前に競技委員会の確認をとり、表計算ソフトウェアを使用する（データファイル、マクロプログラムは競技開始後に新規作成する）
- 事前に競技委員会の確認をとり、各種インテリジェントモジュールの設定を行うため、コンフィギュレータソフトウェアを使用する（データファイルは競技開始後に新規作成する）

4. 課題審査について

- (1) 作業が完了したら大きな声と手を上げて、審査員に意思表示を行うこと。
- (2) 課題審査中、選手は審査員の指示に従い操作を行う。選手は 2 名とも審査に立ち会い、指示されていない作業をしてはならない。審査中、指示されていない作業をした場合は NG 扱いとする。
- (3) 課題審査で設備のサイクルタイムを計測する場合は、審査員の指示に従い選手がストップウォッチを操作する。このとき、ストップウォッチのスタート・ストップのタイミングと計測の状況を、審査員が確認できるようにすること。

5. 競技中のトラブル対応

- (1) 競技中にトラブルが発生した場合は、審査員に申し出ること。
- (2) 課題不備などのクレームは、内容を書面にまとめ、計時中に選手 1 名がクレームコーナーに提出する。回答は各チームの競技エリアにて待つこと。
- (3) 設備・部品で故障等が発生した場合は、原則選手の責任で対応する。
- (4) 支給部品で故障等が発生した場合は、競技委員会の判断により再支給を行う場合がある。ただし、支給時に欠品や破損があったことが明らかである場合は、部品の再支給を行うとともに、再支給の手續きに要した時間を補償する。
- (5) 設備・部品を持参した予備品と交換した場合、選手はその記録を取り、各課題終了後審査員に提出すること。
- (6) トラブルに対する競技時間延長等の判断は、競技委員会が行う。
- (7) 第 2 課題におけるトラブル対処方法は以下の通りとする。

トラブル	対応
仕掛け箇所と無関係の機器が故障した場合	● 持参した予備品があれば審査員に申し出て交換し、その内容を報告書に記入する。 ● 予備品がなければ、その旨をクレーム用紙に記入し、クレームコーナーに提出する。
プログラムが原因で問題が発生した場合	● 審査員にプログラムを修正することを宣言し、報告書に「プログラム修正」と記入する。
仕掛けたトラブルの現象が出なかった	● 必要に応じて第 3 課題の時間中に修復する。

技能五輪全国大会「メカトロニクス」職種 競技要領

た場合	● 報告書で減点されるが、原因調査と修復の作業時間が短縮されるため、それらを相殺して点数・作業時間の修正は行わない。
報告書作成用のパソコンがフリーズした場合	● バックアップ保存された報告書ファイルを開き、続きを入力する。新たな報告書ファイルに続きを入力し、バックアップ保存された報告書とあわせて提出しても良い。

競技前日までの準備

設備仕様チェック

- 動作確認用プログラム（PLCプログラム＋ロボットプログラム）を用いて、設備仕様・改造・サイクルタイム等についてのチェックを行う。
- 設備仕様書（使用機器図面の内容を含む）を満足しない場合は、競技開始までに修正する。

確認項目	担当者	内容
設備仕様	審査員または競技委員	- 最初に、全担当者でチェックの手順と内容の確認（レベリング）を行う。 - 設備仕様書に照らし合わせ、各チームの設備についてチェックする。 - 主要チェック箇所のリスト、担当者のリストをもとに実施する。

電源容量確認

- 動作確認用プログラムで、競技用 FA モデルとロボットを全チーム一斉に動作させる。
- 競技で使用する機器を動作させ、不具合が生じないか確認する。

メモリクリア

- 予備を含む全 PLC と、ロボットの動作プログラムを消去する。
- パソコン等から動作確認用プログラム、その他 PLC とロボットの動作プログラムを削除する。初期設定用プログラムは削除しなくて良い。

確認項目	担当者	内容
メモリクリア	審査員または競技委員	- 最初に、全担当者でチェックの手順と内容の確認（レベリング）を行う。 - 全 PLC とロボット動作プログラムのメモリクリアを確認する（プログラムが保存されていない状態）。 - パソコンに動作プログラムなどが保存されていないことを確認する。初期設定プログラムは保存されていても良い。

競技当日

審査業務

- 選手の直接作業以外の行動時間を記録する（クレーム、トイレ、不具合発生、ルール違反発覚時、復帰時など）。競技中にトラブルが発生しても、時間計測は止めない。
- ルールが遵守されているか、危険行為が行われていないか確認する。問題となる行為を発見した場合、直ちに選手に注意を与え、競技委員に報告する。
- 選手が競技の続行に支障が出る怪我をした場合、直ちに選手 2 名とも作業を停止させ、競技委員に報告し手当てを行う。時間計測は止めない（時間を記録する）。
- 選手からのクレームは、クレームコーナーに書面で提出させる。
- 採点は、チェックシートに従って項目順にチェック（○×を記入）する。チェック項目以外は採点しない。○×の判断が難しい場合などは、状況を文章で記入する。
- 標準課題等の採点で NG があっても、再審査は行わない（1 回の採点につき、ワーク流動は 1 回限りとする）。

第1課題（競技標準時間）

配布資料・支給品

- ステーション製作仕様書 一式
- 単体動作仕様書、標準課題仕様書 各1部
- 標準課題動作チェックシート 1部
- ステーション製作用部品 一式
- 応用課題仕様書 1部（標準課題合格後に配布）

課題開始状態

- 支給品ボックス未開封状態
- 全ての電源 OFF
- メモリクリア完了状態、新規プログラム作成状態
- 基本3ステーションとロボットステーションは連結され、設備チェック完了状態

競技準備（審査員）

- ストップウォッチのスタート準備、配布資料と支給品の準備をする。
- 課題開始状態を確認する。
- 担当チームのスタート準備ができていない場合は、主査へ合図をする。

課題実施要領（競技標準時間の前半）

- 競技開始の合図（ホイッスル）で審査員から課題（応用課題仕様書を除く）を受け取り、競技を開始する。
- 新規ステーションの組み立て・配線・配管・調整を行い、単体運転の動作プログラムを作成する（単体動作）。
- 競技用FAモデル、新規ステーション、ロボットステーションを連結した生産設備を構築し、ネットワーク運転の動作プログラムを作成する（標準課題）。

競技スタート（審査員）

- 競技開始のホイッスルと同時にストップウォッチを動作させる。
- 選手へ配布資料（応用課題仕様書を除く）と支給品を渡す。

昼休み

- 競技終了の合図（ホイッスル）があったら作業をやめ、必要最小限の片付け（使用した工具を戻すなど）を行い、新規ステーションに布を掛けてから競技説明エリアに移動する。
- 選手は競技説明エリアにて休憩し、エリア外への移動を制限する。
- 外部・他チームとの情報交換を禁止する。
- 資料の参照、ペン・メモ等の使用は原則として禁止する。
- 圧着端子補充等の作業準備をしてはならない。

昼休み（審査員）

- 競技終了のホイッスルと同時に作業を停止させる。ストップウォッチを停止し、時間を記録する。
- 新規ステーションに布を掛けさせ、競技説明エリアに移動させる。
- 選手、審査員ともに、外部との接触や連絡を禁止する。

課題実施要領（競技標準時間の後半）

- 競技開始の合図（ホイッスル）で、布が掛かっている状態から後半の競技を開始する。
- 審査員からは、標準時間終了5分前、標準時間終了1分前、標準時間終了の合図がある。
- 標準時間内に標準課題と外観の両方に合格したチームは、審査員からの競技終了の合図で作業をやめ、競技説明エリアに移動して待機する。
- 標準時間内に標準課題と外観の両方に合格できなかったチームは、審査員から標準時間終了の合図があっても作業を継続する。

後半の競技スタート（審査員）

- 競技開始のホイッスルと同時にストップウォッチの動作を再開させる。

競技標準時間終了の告知（審査員）

- 競技開始からの計測時間に従い、競技標準時間終了の告知を行う。
 - 4時間55分：標準時間終了5分前
 - 4時間59分：標準時間終了1分前
 - 5時間00分：標準時間終了
- 標準時間終了時、標準課題・外観ともに合格しているチームは計時を終了し、選手を競技説明エリアで待機させる。それ以外のチームは、競技延長時間として作業を続行させる。

競技標準時間内の課題提出

- 標準時間内に単体動作と標準課題の動作プログラムが完成した場合は、課題を提出し、単体動作・標準課題・外観の審査を受ける（審査中は計時停止）。ただし、単体動作の採点は第1課題中に1回限りとし、2回目以降の課題提出時には採点しない。
- 審査が終了したら、審査員の合図により作業を再開する。ただし、標準課題または外観の不合格回数が第1課題中に計5回に達した場合は、競技打ち切りとし、競技説明エリアに移動して課題審査時間まで待機する。標準課題と外観の両方に合格した場合は、審査員から応用課題仕様書を受け取り、応用課題の動作プログラムを作成する。
- 標準時間内に標準課題と外観の両方に合格し、さらに応用課題を終了した場合は、課題を提出し、競技説明エリアに移動して課題審査時間まで待機する。

競技標準時間内の採点（審査員）

- 選手から課題提出宣言があった場合、ストップウォッチを停止し、提出時間を記録する。
- 以後の作業は禁止とする。
- 第1課題中、1回目の課題提出であれば、単体動作・標準課題の採点を行う。2回目以降の標準課題提出であれば、標準課題の採点を行う。
- 標準課題採点の結果、合格であれば、外観の採点を行う。
- 外観採点の結果、合格であれば、選手に競技再開の合図をすると同時にストップウォッチを動作させ、選手に応用課題仕様書を渡す。
- 採点の結果、標準課題または外観が不合格の場合は、選手に競技再開の合図をすると同時にストップウォッチを動作させる。ただし、不合格回数が計5回に達した場合は競技を打ち切り、審査時間まで選手を競技説明エリアで待機させる。
- 応用課題の提出（全課題終了）であれば、課題審査時間まで選手を競技説明エリアで待機させる。

審査項目	担当者	内容
単体動作	審査員	● チェックシートにより審査を行う。 ● 採点中に NG 項目があっても、それ以降の採点可能な項目は全て採点する。
標準課題	審査員	● チェックシートにより審査を行う。 ● 採点中に NG 項目があれば、それ以降の項目は採点しない。
外観	競技委員	● 外観が合格かどうかを審査する。

第 1 課題（競技延長時間）

競技を延長しないチームの採点

- 標準時間内に標準課題と外観の両方に合格したチームは、指示に従って各チームの競技エリアに戻り、応用課題・組立の採点を行う。提出する応用課題の順番は、仕様書に指定がなければ任意とする。
- 標準時間内に競技打ち切りとなったチームは、指示に従って各チームの競技エリアに戻り、組立の採点を行う。

課題実施要領（競技延長時間）

- 標準時間内に標準課題と外観の両方に合格できなかったチームは、標準時間に引き続いて作業を行う。
- 審査員からは、延長時間終了 5 分前、延長時間終了 1 分前、延長時間終了の合図がある。

競技延長時間内の課題提出

- 延長時間内に単体動作と標準課題の動作プログラムが完成した場合は、課題を提出し、単体動作・標準課題・外観の審査を受ける（審査中は計時停止）。ただし、単体動作の採点は第 1 課題中に 1 回限りとし、2 回目以降の課題提出時には採点しない。
- 審査の結果、標準課題と外観の両方に合格したチームは、競技を終了し、競技説明エリアに移動して待機する。指示に従って各チームの競技エリアに戻り、組立の採点を行う。
- 審査の結果、標準課題と外観の両方に合格できなかったチームは、審査員の合図により作業を再開する。ただし、標準課題または外観の不合格回数が第 1 課題中に計 5 回に達した場合は、競技打ち切りとし、競技説明エリアに移動して待機する。指示に従って各チームの競技エリアに戻り、組立の採点を行う。

延長時間終了後

- 延長時間終了により競技打ち切りとなったチームは、競技説明エリアに移動して待機する。指示に従って各チームの競技エリアに戻り、組立の採点を行う。

競技延長時間（審査員）

- 競技を延長しないチームは、審査担当者が揃い次第、選手を各チームの競技エリアに移動させ、採点を行う。採点終了後、選手を競技説明エリアで待機させる。
- 競技標準時間内に標準課題・外観がともに合格にならなかったチーム（競技打ち切りチームを除く）は、競技標準時間に引き続き、第 1 課題の競技を実施する。

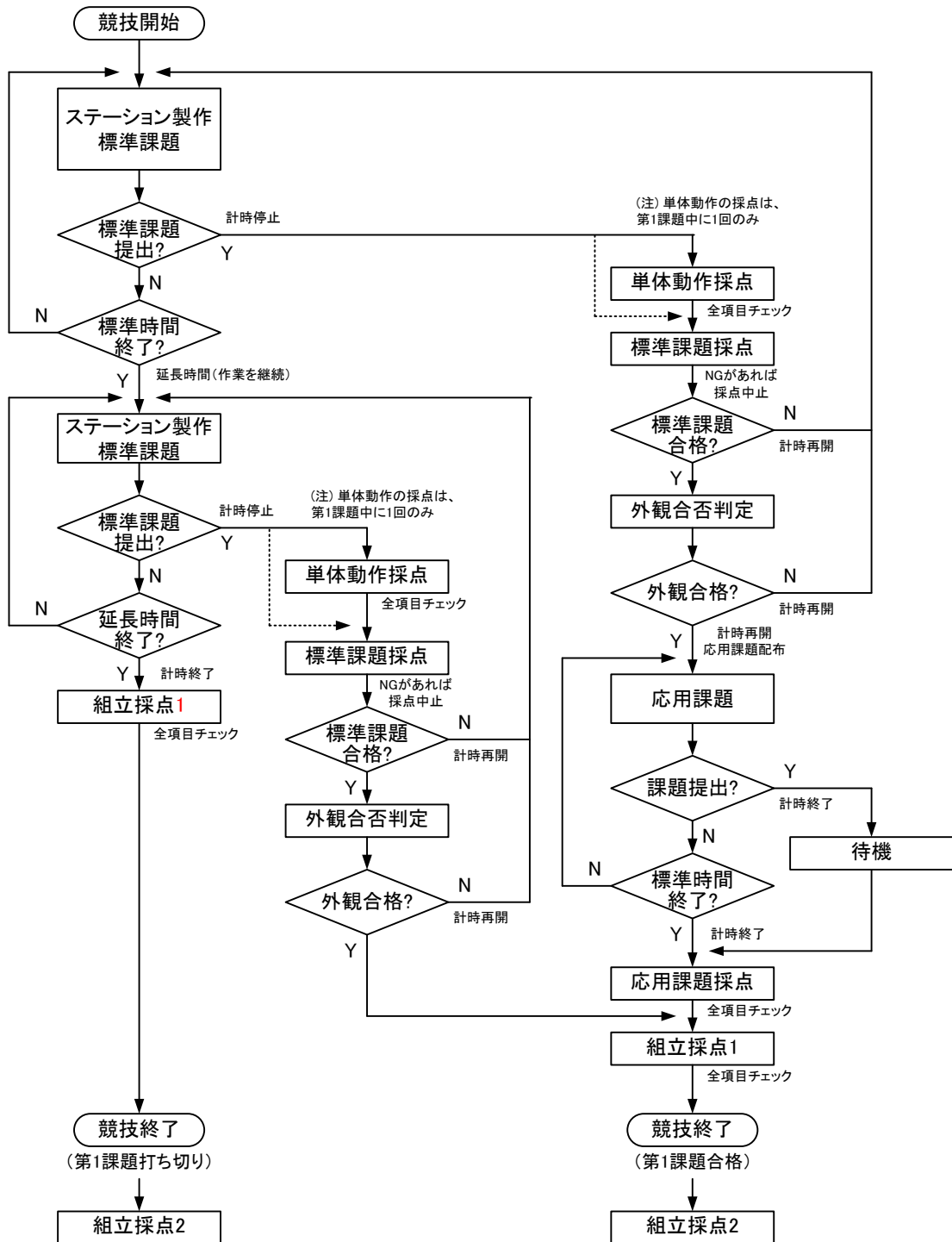
競技延長時間終了の告知（審査員）

- 競技開始からの計測時間に従い、競技延長時間終了の告知を行う。
 - 5 時間 55 分：延長時間終了 5 分前
 - 5 時間 59 分：延長時間終了 1 分前
 - 6 時間 00 分：延長時間終了（競技打ち切り）

競技を延長したチームの採点（審査員）

- 選手から課題提出宣言があった場合、ストップウォッチを停止し、提出時間を記録する。
- 以後の作業は禁止とする。
- 第 1 課題中、1 回目の課題提出であれば、単体動作・標準課題の採点を行う。
- 2 回目以降の標準課題提出であれば、標準課題の採点を行う。
- 標準課題採点の結果、合格であれば、外観の採点を行う。
- 外観採点の結果、合格であれば、計時を終了し、選手を競技説明エリアで待機させる。
- 採点の結果、標準課題または外観が不合格の場合は、選手に競技再開の合図をすると同時にストップウォッチを動作させる。ただし、不合格回数が計 5 回に達した場合は競技を打ち切り、選手を競技説明エリアで待機させる。
- 審査担当者が揃い次第、選手を各チームの競技エリアに移動させ、採点を行う。採点終了後、選手を競技説明エリアで待機させる。

審査項目	担当者	内容
応用課題	審査員または競技委員 計 2 名以上	- チェックシートにより審査を行う。 - 採点する課題の順番は、チェックシートに指定がなければ選手の希望する順とする。 - 採点中に NG 項目があっても、それ以降の採点可能な項目は全て採点する。
組立	審査員または競技委員 計 2 名以上	- チェックシートにより審査を行う。 - 採点中に NG 項目があっても、採点可能な項目は全て採点する。 - 一部項目は競技終了後、競技委員のみで審査を行う。



第2課題のための準備

- 準備開始の合図（ホイッスル）で、第2課題のための準備を開始する。
- 標準課題と外観が合格のチーム（第1課題合格チーム）は、第1課題で作成した動作プログラムでの試運転（流動確認）、片付けを行う。必要に応じて第1課題で作成したプログラムを PLC・ロボットにダウンロードしても良い。試運転中にワーク流動の不具合があった場合は、競技委員の許可を得て流動不良箇所を調整しても良い。
- 標準課題または外観が不合格のチーム（第1課題打ち切りチーム）は、片付けを行う。
- プログラムの修正、メモ書きは禁止する。
- 第1課題合格チームは、以下の状態にする。
 - 全ステーション原点位置
 - 全ステーションの非常停止ボタン ON
 - 全ステーションのストップバルブを開き、コンプレッサから配管接続されたメインストップバルブのみ閉じる
 - エアコンプレッサ OFF
 - 全ステーションの電源ブレーカ OFF、電源プラグはコンセントに挿しておく（ただしロボットステーションは電源が切れていれば良い）
 - 全ステーションに布を掛ける
 - 競技エリアを整理整頓する（レイアウトを変更しても良い）
 - 第1課題で配布された全資料を封筒に入れ、予備部品使用記録用紙と共に机の上に置く
- 第1課題打ち切りチームは、以下の状態にする。
 - エアコンプレッサ OFF
 - 全ステーションの電源ブレーカ OFF（ただしロボットステーションは電源が切れていれば良い）
 - 新規ステーションのみ布を掛ける
 - 競技エリアを整理整頓する
 - 第1課題で配布された全資料を封筒に入れ、予備部品使用記録用紙と共に机の上に置く
- 審査員からは、準備時間終了5分前、準備時間終了1分前、準備時間終了の合図がある。
- 準備時間が終了したら、速やかにエリアから退出する。

準備スタート（審査員）

- 準備開始のホイッスルと同時にストップウォッチを動作させる。

準備時間内（審査員）

- 選手が流動確認・片付け・プログラムのダウンロード以外の作業を行わないことを確認する。
- 選手から流動不具合箇所調整の要望があった場合は、競技委員を呼ぶ。

準備時間終了の告知（審査員）

- 準備開始からの計測時間に従い、準備時間終了の告知を行う。
 - 10分経過：準備時間終了5分前
 - 14分経過：準備時間終了1分前
 - 15分経過：準備時間終了、退出指示

準備時間終了後（審査員）

- 選手を競技エリアから退場させる。
- 選手が資料・機材を持ち出さないか確認する。
- 第1課題で配布した全資料と予備部品使用記録用紙を回収し、競技委員に提出する。

第2課題（第1課題合格のチーム）

配布資料・支給品

- 前日回収した第1課題の資料 一式（競技開始前に配布）
- 前日の「組立採点2」の採点結果 1部（競技開始前に配布）
- 報告書提出用空のUSBメモリ 1個（競技開始前に配布）
- 第2課題動作チェックシート 1部
- 修復用部品 一式（支給部品がない場合もある。）
- トラブル仕掛け箇所の資料 1部（第2課題の競技終了後に配布）

課題開始状態

- 全ステーションに布を掛けたままとする（中を見てはならない）
- 支給品ボックス未開封状態
- エアコンプレッサ起動
- ロボットステーションの起動準備をしても良い
- はんだごて等は電源を入れて良い
- PLC 接続用パソコンを立ち上げ、標準課題プログラムを開く（ケーブル接続可）
- 報告書作成用パソコンを立ち上げ、報告書を開き、チーム名を入力する（配布されたUSBメモリの接続可）
- 第1課題の全資料を展開して良い

競技準備（審査員）

- 前日回収した第1課題の資料を選手に渡す。
- 報告書提出用USBメモリを選手に渡す。
- ストップウォッチのスタート準備。
- 課題開始状態を確認する。
- 担当チームのスタート準備ができていない場合は、主査へ合図をする。

課題実施要領（トラブルシューティング課題）

- 競技開始の合図（ホイッスル）で審査員から資料と支給品を受け取り、トラブルシューティング課題を開始する。
- トラブルの発見・修復作業を行い、修復作業内容を報告書に記入する。
- 交換部品、欠品部品が必要な場合は、支給されている部品を適宜使用する。なお、支給部品を使い切る必要はない。
- 審査員からは、競技時間終了5分前、競技時間終了1分前、競技時間終了の合図がある。

競技スタート（審査員）

- 競技開始のホイッスルと同時にストップウォッチを動作させる。
- 選手へ配布資料と支給品を渡す。

競技時間中（審査員）

- 選手の修復作業、報告書入力内容、報告書操作内容を確認する。

競技時間終了の告知（審査員）

- 競技開始からの計測時間に従い、競技時間終了の告知を行う。
 - 10分経過：競技終了5分前
 - 14分経過：競技終了1分前
 - 15分経過：競技時間終了（競技打ち切り）

課題提出（トラブルシューティング課題）

- 全てのトラブルを修復したら、課題を提出し、動作・修復の審査を受ける（審査中は計時停止）。動作は、第2課題動作チェックシートで審査する。
- 最初の課題提出時に、審査員の指示に従って報告書を保存、終了し、USBメモリにて審査員に提出する。
- 審査の結果、動作と修復の両方に合格したチームは、競技を終了する。
- 審査の結果、動作と修復の両方に合格できなかったチームは、審査員の合図により作業を再開する。ただし、不合格回数が計2回に達した場合は、競技打ち切りとする。

課題提出時の採点（審査員）

- 選手から課題提出宣言があった場合、ストップウォッチを停止し、提出時間を記録する。
- 最初の課題提出時に、報告書の保存、終了、USBメモリによる提出を指示する。
- 以後の作業は禁止し、課題審査（動作、修復の採点）を行う。
- 動作、修復の採点結果が全項目OKの場合、競技終了とする。
- 動作、修復の両方に合格できなかった場合は、選手に競技再開の合図をすると同時にストップウォッチを動作させる。ただし、不合格回数が計2回に達した場合は、競技打ち切りとする。
- 動作採点の結果が合格、修復採点の結果が不合格となった場合、以後の課題再提出時の採点では動作の採点を省略する。ただし、修復採点においてワーク流動に関わる箇所がNGであった場合は、採点を省略しない。

審査項目	担当者	内容
動作	審査員	• チェックシートにより審査を行う。 • 採点中にNG項目があれば、それ以降の項目は採点しない。
修復	審査員	• チェックシートにより審査を行う。 • 採点中にNG項目があっても、それ以降の採点可能な項目は全て採点する。

競技終了後

- トラブル仕掛け箇所の資料を、審査員から受け取る。
- その場で待機する。

競技終了後（審査員）

- トラブル仕掛け箇所の資料を選手に渡す。
- 仕掛けられたトラブルが発生しなかった場合は、競技委員に連絡する。
- 審査資料とUSBメモリは、第3課題実施中に競技委員に手渡す。

第2課題（第1課題打ち切りのチーム）

配布資料・支給品

- 前日回収した第1課題の資料 一式（競技開始前に配布）
- 前日の「組立採点2」の採点結果 1部（競技開始前に配布）

課題開始状態

- 新規ステーションに布を掛けたままとする
- エアコンプレッサ起動
- 全ステーションの電源ブレーカ OFF（ただしロボットステーションは電源が切れていれば良い）
- パソコンのプログラミングソフト立ち上げ完了、ケーブル接続可
- 第1課題の全資料を展開して良い

競技準備（審査員）

- 前日回収した第1課題の資料を選手に渡す。
- ストップウォッチのスタート準備。
- 課題開始状態を確認する。
- 担当チームのスタート準備ができていない場合は、主査へ合図をする。

課題実施要領（第1課題継続）

- 競技開始の合図（ホイッスル）で第1課題を開始する。
- 審査員からは、競技時間終了5分前、競技時間終了1分前、競技時間終了の合図がある。

競技スタート（審査員）

- 競技開始のホイッスルと同時にストップウォッチを動作させる。

競技時間終了の告知（審査員）

- 競技開始からの計測時間に従い、競技時間終了の告知を行う。
 - 10分経過：競技終了5分前
 - 14分経過：競技終了1分前
 - 15分経過：競技時間終了（競技打ち切り）

課題提出（第1課題）

- 標準課題の動作プログラムが完成したら課題を提出し、標準課題・外観の審査を受ける（審査中は計時停止）。標準課題は、第1課題動作チェックシートで審査する。
- 審査の結果、標準課題と外観の両方に合格したチームは、競技を終了する。
- 審査の結果、標準課題と外観の両方に合格できなかったチームは、競技打ち切りとする。

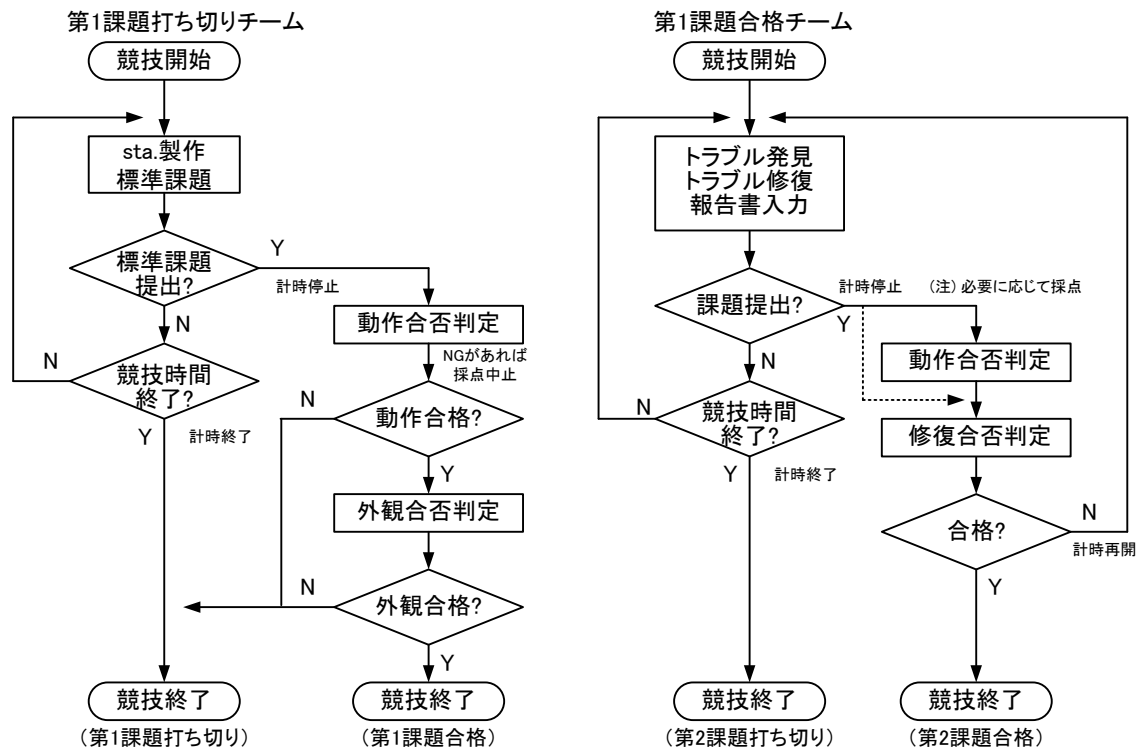
課題提出時の採点（審査員）

- 選手から課題提出宣言があった場合、ストップウォッチを停止し、提出時間を記録する。
- 以後の作業は禁止とし、課題審査（動作の採点）を行う。
- 動作採点の結果が合格（全項目OK）であれば、外観の採点を行う。
- 外観採点の結果が合格であれば、競技終了とする。
- 採点の結果、動作または外観が不合格であれば、競技打ち切りとする。

審査項目	担当者	内容
動作 （第1課題）	審査員	● チェックシートにより審査を行う。 ● 採点中にNG項目があれば、それ以降の項目は採点しない。
外観	競技委員	● 外観が合格かどうかを審査する。

競技終了後

- その場で待機する。



第3課題（第2課題合格のチーム、第2課題時間中に第1課題合格のチーム）

配布資料・支給品

- メンテナンス課題仕様書 1部
- 第3課題動作チェックシート 1部
- 改造用部品 一式（競技開始時に支給。支給部品がない場合もある。）

課題開始状態

- 第2課題終了後、3分間程度で開始準備を行う
- 全ステーションの電源ブレーカの状態は任意。ロボットステーションの起動準備をしても良い
- はんだごて等は電源を入れて良い
- PLC 接続用パソコンを立ち上げ、標準課題プログラムを開く（ケーブル接続可）
- 第1・第2課題の全資料を展開して良い

競技準備（審査員）

- ストップウォッチのスタート準備。
- 課題開始状態を確認する。

課題実施要領（メンテナンス課題）

- 競技開始の合図で審査員から資料を受け取り、メンテナンス課題を開始する。
- 審査員からは、競技時間終了5分前、競技時間終了1分前、競技時間終了の合図がある。

競技スタート（審査員）

- チーム毎に、競技開始の合図をすると同時にストップウォッチを動作させる。
- 選手へ配布資料と支給品を渡す。

競技時間終了の告知（審査員）

- 競技開始からの計測時間に従い、競技時間終了の告知を行う。
 - 1時間55分経過：競技終了5分前
 - 1時間59分経過：競技終了1分前
 - 2時間経過：競技時間終了（競技打ち切り）

課題提出（メンテナンス課題）

- 全ての作業が完了したら課題を提出し、動作・外観の審査を受ける（審査中は計時停止）。動作は、第3課題動作チェックシートで審査する。
- 審査の結果、動作と外観の両方に合格したチームは、組立の採点を行い、競技を終了する。
- 審査の結果、動作と外観の両方に合格できなかったチームは、審査員の合図により作業を再開する。ただし、不合格回数が4回に達した場合は、競技打ち切りとする。
- 競技打ち切りの場合、組立の審査を受ける。

課題提出時の採点（審査員）

- 選手から課題提出宣言があった場合、ストップウォッチを停止し、提出時間を記録する。
- 以後の作業は禁止し、課題審査（動作、外観の採点）を行う。
- 動作、外観の採点結果が全項目OKの場合、組立の採点を行い、競技終了とする。
- 動作採点または外観採点の結果がNGの場合、選手に競技再開の合図をすると同時にストップウォッチを動作させる。ただし、不合格回数が計4回に達した場合は、競技打ち切りとする。
- 競技打ち切りの場合、組立の採点を行う。

審査項目	担当者	内容
動作	審査員	● チェックシートにより審査を行う。 ● 採点中にNG項目があれば、それ以降の項目は採点しない。
外観	競技委員	● 外観が合格かどうかを審査する。
組立	審査員 (1名)	● チェックシートにより審査を行う。 ● 採点中にNG項目があっても、それ以降の採点可能な項目は全て採点する。

競技終了後

- 装置の電源を切り、競技説明エリアに移動する。装置に布はかけない。

競技終了後（審査員）

- 装置の電源を切り、適度に整理整頓をさせ、選手を競技説明エリアに移動させる。装置に布をかけない。

第3課題（第2課題打ち切りのチーム）

配布資料・支給品

- メンテナンス課題仕様書 1部（外観合格後に配布）
- 第3課題動作チェックシート 1部（外観合格後に配布）
- 改造用部品 一式（外観合格後に支給。支給部品がない場合もある。）

課題開始状態

- 第2課題終了後、3分間程度で開始準備を行う
- 全ステーションの電源ブレーカの状態は任意。ロボットステーションの起動準備をしても良い
- はんだごて等は電源を入れて良い
- PLC 接続用パソコンを立ち上げ、標準課題プログラムを開く（ケーブル接続可）
- 第1・第2課題の全資料を展開して良い

競技準備（審査員）

- ストップウォッチのスタート準備。
- 課題開始状態を確認する。

課題実施要領（第2課題継続）

- 競技開始の合図で第2課題を開始する。
- トラブルの修復作業を行う。報告書は使用しない。
- トラブル修復作業が完了したら、課題を提出し、外観の審査を受ける（審査中は計時停止）。
- 審査の結果、合格したチームは、メンテナンス課題を実施する。
- 審査の結果、合格できなかったチームは、審査員の合図により作業を再開する。ただし、不合格回数が計3回に達した場合は、競技打ち切りとする。
- 審査員からは、競技時間終了5分前、競技時間終了1分前、競技時間終了の合図がある。

競技スタート（審査員）

- チーム毎に競技開始の合図をすると同時にストップウォッチを動作させる。

第2課題提出時の採点（審査員）

- 選手から課題提出宣言があった場合、ストップウォッチを停止し、提出時間を記録する。
- 以後の作業は禁止とし、外観の審査を行う。
- 審査の結果、外観合格であれば、メンテナンス課題を実施する。
- 審査の結果、外観不合格であれば、選手に競技再開の合図をすると同時にストップウォッチを動作させる。ただし、不合格回数が計3回に達した場合は、競技打ち切りとする。

競技時間終了の告知（審査員）

- 競技開始からの計測時間に従い、競技時間終了の告知を行う。
 - 1時間55分経過：競技終了5分前
 - 1時間59分経過：競技終了1分前
 - 2時間経過：競技時間終了（競技打ち切り）

審査項目	担当者	内容
外観 (第2課題)	競技委員	● 外観が合格かどうかを審査する。

課題実施要領（メンテナンス課題）

- 審査員の合図で審査員から資料を受け取り、メンテナンス課題を開始する。
- （以下、第2課題合格チームと同じ）

メンテナンス課題スタート（審査員）

- 第2課題（外観）合格であれば、選手にメンテナンス課題開始の合図をすると同時にストップウォッチを動作させる。
- 競技時間は通算する（リセットしない）。
- 選手へ配布資料と支給品を渡す。

競技終了後

- 装置の電源を切り、競技説明エリアに移動する。装置に布はかけない。

競技終了後（審査員）

- 装置の電源を切り、適度に整理整頓をさせ、選手を競技説明エリアに移動させる。装置に布をかけない。

第3課題（第1課題打ち切りのチーム）

配布資料・支給品

- メンテナンス課題仕様書 1部（外観合格後に配布）
- 第3課題動作チェックシート 1部（外観合格後に配布）
- 改造用部品 一式（外観合格後に支給。支給部品がない場合もある。）

課題開始状態

- 第2課題終了後、1分間で開始準備を行う。
- 全ステーションの電源ブレーカの状態は任意。ロボットステーションの起動準備をしても良い
- はんだごて等は電源を入れて良い
- パソコンのプログラミングソフト立ち上げ完了、ケーブル接続可
- 第1・第2課題の全資料を展開して良い

競技準備（審査員）

- ストップウォッチのスタート準備。
- 課題開始状態を確認する。

課題実施要領（第1課題継続）

- 競技開始の合図で、第1課題を開始する。
- 標準課題の動作プログラムが完成したら課題を提出し、標準課題・外観の審査を受ける（審査中は計時停止）。標準課題は、第1課題動作チェックシートで審査する。
- 審査の結果、標準課題と外観の両方に合格したチームは、メンテナンス課題を実施する。
- 審査の結果、標準課題と外観の両方に合格できなかったチームは、審査員の合図により作業を再開する。ただし、標準課題または外観の不合格回数が計3回に達した場合は、競技打ち切りとする。
- 審査員からは、競技時間終了5分前、競技時間終了1分前、競技時間終了の合図がある。

競技スタート（審査員）

- チーム毎に競技開始の合図をすると同時にストップウォッチを動作させる。

標準課題提出時の採点（審査員）

- 選手から課題提出宣言があった場合、ストップウォッチを停止し、提出時間を記録する。
- 以後の作業は禁止とし、審査を行う。
- 動作採点の結果、合格であれば、外観の採点を行う。
- 外観採点の結果、合格であれば、メンテナンス課題を実施する。
- 審査の結果、動作もしくは外観が不合格であれば、選手に競技再開の合図をすると同時にストップウォッチを動作させる。ただし、不合格回数が計3回に達した場合は、競技打ち切りとする。

競技時間終了の告知（審査員）

- 競技開始からの計測時間に従い、競技時間終了の告知を行う。
 - 1時間55分経過：競技終了5分前
 - 1時間59分経過：競技終了1分前
 - 2時間経過：競技時間終了（競技打ち切り）

審査項目	担当者	内容
動作 （第1課題）	審査員	● チェックシートにより審査を行う。 ● 採点中にNG項目があれば、それ以降の項目は採点しない。
外観 （第1課題）	競技委員	● 外観が合格かどうかを審査する。

課題実施要領（メンテナンス課題）

- 審査員の合図で審査員から資料を受け取り、メンテナンス課題を開始する。
- （以下、第2課題合格チームと同じ）

メンテナンス課題スタート（審査員）

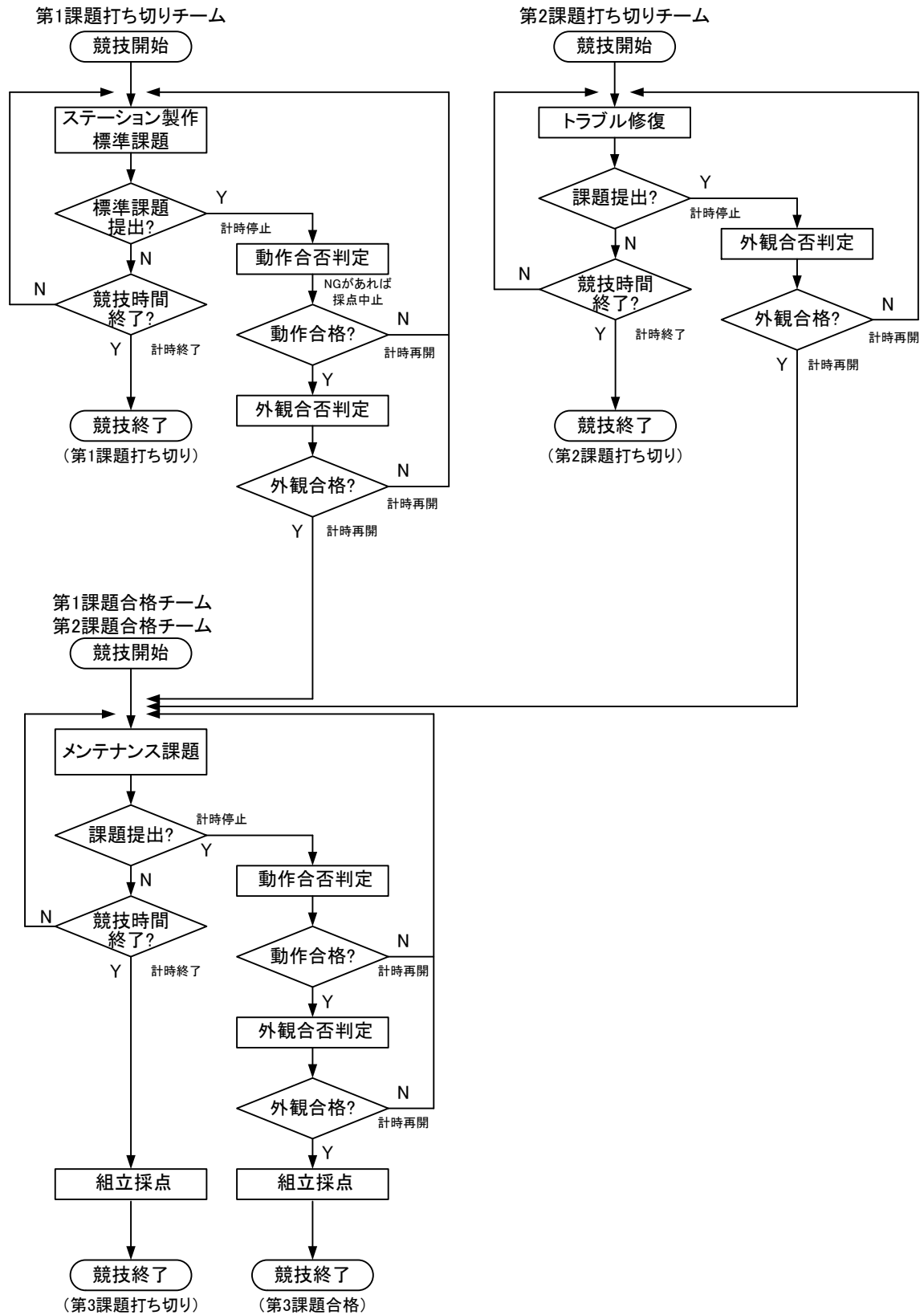
- 第1課題（動作、外観）合格であれば、選手にメンテナンス課題開始の合図をすると同時にストップウォッチを動作させる。
- 競技時間は通算する（リセットしない）。
- 選手へ配布資料と支給品を渡す。

競技終了後

- 装置の電源を切り、競技説明エリアに移動する。装置に布はかけない。

競技終了後（審査員）

- 装置の電源を切り、適度に整理整頓をさせ、選手を競技説明エリアに移動させる。装置に布をかけない。



配布資料一覧

第 1 課題

資料名	選手	審査員
ステーション製作仕様書	開始時	○
単体動作仕様書	開始時	○
標準課題仕様書	開始時	○
応用課題仕様書	外観合格時	○
採点表表紙		○
単体動作チェックシート		○
標準課題動作チェックシート	開始時	○
応用課題動作チェックシート		○
組立チェックシート		○
ステーション製作用部品	開始前 (開始時に開梱)	

第 2 課題

資料名	第 1 課題継続		第 2 課題	
	選手	審査員	選手	審査員
第 1 課題の資料	開始前		開始前	
USB メモリ			開始前	
修復用部品			開始前 (開始時に開梱)	○
採点表表紙		○		○
標準課題動作チェックシート		○		
第 2 課題動作チェックシート			開始時	○
第 2 課題修復チェックシート				○
トラブル仕掛け箇所資料			競技後	○

第 3 課題

資料名	第 1 課題継続		第 2 課題継続		第 3 課題	
	選手	審査員	選手	審査員	選手	審査員
メンテナンス課題仕様書	外観 合格時	○	外観 合格時	○	開始時	○
改造用部品	外観 合格時	○	外観 合格時	○	開始前 (開始時に開梱)	
採点表表紙		○		○		○
標準課題動作チェックシート		○				
第 3 課題動作チェックシート	外観 合格時	○	外観 合格時	○	開始時	○
第 3 課題組立チェックシート		○		○		○